

特別支援学級生活単元・総合学習指導案

1. 単元名 「ふれあいいっぱい—城山中学との交流会—」

2. 単元目標

- 先輩や仲間との交流を楽しむことができる。(人や物と関わる力)
- 活動を通して、相手の思いを受け止め、自分の思いを自分なりの表現で相手に伝えることができる。(表現力)
- 自分や友達の役割が分かり、協力して活動に参加できる。(問題解決力)
- 計画・実践に関わることにより、達成感を味わうことができる。(評価力)

3. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫

①単元について

「ふれあいいっぱい」は毎年行われる学校間交流とふれあいコンサートへの取り組みについての単元である。三の丸小学校の特別支援学級で行われている学校間交流には3種類ある。

1つ目は近隣の小学校との交流である。6月頃、本校を会場にして、新玉小・大窪小・町田小・山王小・早川小の5校とのふれあい活動を2回行っている。内容は、主に、宿泊学習に向けてのスタントの練習である。自己紹介なども行う中、他校の友達を視野に入れて行動することができるようになってきている。

2つ目は、三の丸小学校の学区に居住している小田原養護学校在籍の児童1名との交流である。今年で2年目になる。環境に慣れてきたため、養護学校の児童は三の丸小学校の朝の会を見学するのではなく朝の会に参加できるようになった。朝の会の後、養護学校の先生の指導のもと、皆と一緒に音楽や読み聞かせの授業を楽しむことができた。三の丸小学校の児童も養護学校の児童や先生を受け入れ、楽しく授業に参加することができた。

3つ目は11月に行われる城山中学校との交流である。卒業した先輩と久しぶりに会い、一緒に歌を歌ったり、プレゼント交換をしたり、ゲームを楽しんだりすることが主な内容である。なつかしい先輩に会えることや中学校の様子を知ることができることから、楽しく有意義な活動の一つになっている。

12月に行うふれあいコンサートは、交流級の音楽の授業で学んだことや、学校間交流で培ったふれあいや発表への意欲を生かして、聞き手である他の児童に楽しんでもらいたいという願いをもって行うことができればと思う。楽しんでもらうことにより、成功体験として心に残り自信につながっていけばよいと考える。

今まで、3種類の学校間交流は、ほとんど、教師が児童の実態を考慮し計画を立てて実行されてきた。その中で、児童は活動にチャレンジし練習に取り組み、他の学校の児童とのふれあいを楽しんだ。本年度は、城山中学校との交流において、さらに意欲をもって取り組めるように、計画の段階から児童が主体的に関われる部分を入れていきたい。そして、自分の思いや願いをふくらませ相手の思いや願いを受け止めることが十分できる、密度の濃い交流にしていきたい。

②知的好奇心について

城山中学校との学校間交流については、児童が積極的に交流への思いをもてるように、城山中学校から本校へ交流の申し出をしていただくようお願いした。導入で手紙と写真（城山中のメンバーの顔写真）、文字カード（城山中のメンバーの名前）を活用することにした。児童は、先輩のなつかしい顔を思い出し、交流会を楽しみにしているという思いを知ることにより、交流に対する意欲を高めるであろう。写真や文字カードは、じっくりと繰り返し相手を確認することができる。三の丸小学校以外の小学校を卒業した先輩についても、写真や文字カードにより顔と名前と思いを確認することで、親しみをもち、交流したいという思いをもつであろう。相手の思いに目を向けることにより、自分達の思いをふくらませることができると思われる。

③関わり合い・ひびき合いについて

○交流の内容についての話し合い

「交流したい。」という合意の後、交流の内容について話し合いをもつことになる。①城山中学校の先輩は何をしたいか。②自分たちは何をしたいか。③どのように伝えるか。を中心に話し合わせたい。①や②については、今までの経験を生かしながら相手校の思いに目を向けることを示唆したい。この交流の内容について意見を出し合うとき、児童のひびきあいの姿が見られると思われる。城山中の先輩とともに、自分たちの思いや意見を取り入れた交流の案を作るなどして、交流が児童主体となって計画されるとよい。

○準備

交流の内容が決まると準備の段階になる。協力して活動することや練習することが主な内容である。準備の段階でも、相手校の思いを心に留めながら取りかかるとよい。協力しての活動はプレゼント作りであるため、喜んでもらえるものを作りたいという気持ちをもって臨ませたい。

歌・ゲーム・自己紹介などの練習では、目当てをもって取り組ませたい。互いに見合っただバイスし合ったり、よいところや頑張っているところを認め合ったりさせていきたい。

○交流会

当日、自分達が交流を楽しみ、また、城山中学校の先輩が楽しんでいることをうれしいと感じることができるとよいと思う。そして、それぞれの役割を果たしたり互いに見合ったりする中で、仲間が頑張っていることを認め合えることができるとよい。

○交流会の後の感想・手紙

感想を絵や文で表すことや相手校の先輩に手紙を書くことについては、児童の思いを大切にしていきたい。取り組むときには、交流会当日の写真により、自分の気持ちや相手校の先輩の気持ちに目を向けさせたい。また、準備の活動の写真も掲示し、仲間との関わりや協力したことも思い出させたい。

児童の願いのもと交流が計画され実現することにより達成感をもたせたいと思う。城山中学校との学校間交流の計画実践により、楽しく活動することを通して進んで関わろうとする児童をめざしたい。

4 単元指導計画（全 16 時間 本時 1/16 生活単元⑤時間、総合学習⑩時間）

時	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1 (本時) 〜 4	<p>○ △△中学校のお姉さん達からお手紙がきたよ。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰からの手紙かを写真を見て確かめる。(本時) ・手紙の内容を知り、交流会への参加を話し合う。 <p>○城山中のお姉さんやお兄さんと交流しよう。③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招待状の返事を書く。 ・交流会でどんなことをやりたいか話し合う。 ・返事を出し、交流会へ向けての計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も中学生との交流会をしたいという意欲を持たせる。 ・視聴覚教材を活用して交流会のイメージを喚起する。【問題設定力】 ・交流会の内容を話し合う。【問題解決力】
5 〜 12	<p>○歌・ゲームの練習をしよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目当てを持って練習する。 <p>○自己紹介を工夫しよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切にしているものを紹介する。(実物を見せて) <p>○育てたサツマイモを使ってプレゼントを作ろう。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモを使ったプレゼントを考える。 ・栄養士さんの話を聞き、スイートポテトの作り方を知る。 ・スイートポテトを作って食べる。 ・プレゼント用のスイートポテトを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝の会でも目当てに向かって練習を行い、自信を持って活動できるように支援する。【評価力】 ・今までの自己紹介の仕方を振り返り、新しい方法を考えさせる。【表現力】 ・サツマイモの栄養や料理法について、栄養士さんの話を聞く。【情報活用力】 ・交流会に向けた活動がスムーズにいくよう支援する。【人やものに関わる力】
13 〜 15	<p>○城山中学へ行って、楽しく交流してこよう。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで交流するよう支援する。【人やものに関わる力】
16	<p>○交流会の思い出を絵や文に書こう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼の手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流してよかったことを書く。【表現力・評価力】

5. 本時について

(1) 本時目標

- ・手紙から城山中学校の先輩の「交流したい」という思いを知る。
- ・自分なりの表現で自分の思いを伝えることができる。
- ・仲間の思いを聞くことができる。
- ・交流に意欲をもつ。

(2) 本時展開

学習活動	児童の活動 (○) と支援 (※)	備考
1. 始めのあいさつをする。	○日直の合図を聞き、あいさつをする。	
2. どの中学校からの手紙かを知る。	○中学生の顔写真を見て、誰からの手紙かを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便ポストの写真 ・C児の手紙 ・ポストの模型 ・中学生からの手紙 ・中学生の顔写真 ・小学校時代の写真 ・名前カード ・プロジェクター
3. 手紙の内容を予想する。	○手紙の内容を予想して話し合う。	
4. 手紙を読む。	○手紙を読む。(予想と比べ内容を知る。友達の名前を確認する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生からの手紙 ・プロジェクター
5. 中学生の願いを知る。	○中学生の願いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙の内容確認カード
6. 交流したいという意欲を持つ。	○手紙の中学生の話 (交流したい) から思ったことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・百人一首 ・さつまいも ・ポップコーン用のトウモロコシ ・メッセージカード ・歌の小道具 (紙コップ、笛など)
7. 終わりのあいさつをする。	○日直の合図を聞き、あいさつをする。	

6. 実践を終えて

城山中学校との交流会は年1回行ってきた。今までの交流会では、中学生中心に運営されていて、児童の積極的な活動場面が少なかった。そこで、今年度は、交流会で児童が意欲をもって活動するように単元構成を工夫した。そのことにより、今年度の交流会では、児童の意欲的に取り組む姿が見られた。

今年度の実践の成果は、次のようなことである。

単元の導入段階で、中学生からの手紙と顔写真を紹介し、今までの交流会を思い出したり、今年度の交流会への参加をどうするか話し合ったりした。このことにより、自分たちの交流会だという意識を持たせることができた。

中学生の顔写真と手紙を交流会当日まで教室に掲示しておいた。子どもたちの意識が持続し、参加意欲も高まった。

事前に中学校の特別支援学級担任との打合せを持った。児童の思いや願いを実現するには、交流校の教師との共通理解が大切だと実感した。

このような実践の中で、児童のひびき合う姿が見られた。

中学校生活について質問したり、交流会の中で感想発表がしっかりできたりした。また、毎年行っている「坊主めぐり」のゲームでは、すぐに中学生と打ち解けて、どの子も楽しんでいった。

今後の課題は、次のようなことである。

もっとひびき合わせるためには、計画段階で、過去の交流会の写真やビデオの活用を図ることが必要である。そのことにより、子どもたちが会のイメージをしっかりと持って考えることができ、話し合いが活発になると考える。

また、今回は、中学生からの手紙をすべて紹介したが、今後は、児童の実態に合わせた情報の精選をする必要がある。